

半導体漫遊記

(25)

湯之上隆

サッカー元日本代表の三浦和良氏(カズ)が、日経新聞の連載コラムで面白いことを書いています。Jリーグ終盤の今、予想に反して低迷するチームから

「こんなはずじゃなかった」と思っているのではないか。しかし、カズが言う通り、これが日本の実力なのだ。このようになる兆候

「隣のチャンネルを見たい。だけどクリケットのスコアも気になる...、というインド人の要望に応えたのがサムスのテレビだ。これで日本製の半額である。日本製は全く売れていなかった。世界一周が終わって、ある講演会にて、日立の幹部がいたので聞いてみた。「BRICSでは売りたいくないんですね? (売らないという戦略もあるかと思っただけ)」。すると、この幹部は「いや、売りたいんだ」という。でも、これで全く売れないです。どういふつもりなんでしょうか」と聞くと、

後退する日本のテレビ産業

現実受け入れられるか

は、「こんなはずじゃなかった、僕らの実力はこんなもんじゃな」という声が聞かれるという。それに対して、カズは、「違う、それが実力なんだ、その厳しい現実を受け入れ、どうしたら実力を上げられるかを考えるべきだ」と書いています。カズの言葉を聞かせ

は、以前からあった。2004年、同志社大学の研究者として、上記3社を訪問し、事業責任者などにインタビューした時のことだ。「半導体メモリDRAMは、韓国勢に追い抜かれ、日本は撤退しました。薄型テレビは

「これが自分たちの実力だった」という現実を受け入れられるかどうか、それが再生できるか否かの分岐点であると考えます。(半導体技術者・社会科学者)